

第8回 くすりのしおりクラブ会議 議事録

開催日時：2015年2月10日（火）14:00～16:30

開催場所：大手町サンスカイルームA室

出席者：くすりのしおりクラブ会員担当者 79名（72社）

関係者（事務局含む） 11名

計90名

【挨拶】 くすりの適正使用協議会 藤原副理事長

【講演】 『医薬品の安全性情報を患者に届けるために』

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 俵木 登美子 安全管理監

【講演】 『電子お薬手帳 harmo（ハルモ）ご紹介』

SONY 株式会社 harmo 事業室ソリューション開発課

福士 岳歩 統括課長

【議事】

1. くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会報告

（くすりの適正使用協議会 岸野委員）

＜参考資料：スライド資料＞

・英語版「くすりのしおり®」の啓発活動

英語版は3年間で約2.5倍掲載数が伸びた。

薬剤師への「くすりのしおり®」認知度アンケートの結果、日本語版は82%だったが、一方、英語版は26%であった。そのため、英語版の啓発活動を行った。クレデンシャル誌、日薬情報おまとめ便に広告記事として掲載・配布を行い、薬剤師等医療関係者への周知を図った。尚、委員会中期計画において、日本語版アクセス数上位1000位中の英語版作成率を80%にするという目標が掲げられている。（現在61%：配布資料2参照）

・「くすりのしおり®」を活用した薬剤師と患者とのコミュニケーション動画 ～病棟編、在宅医療編～の動画作成

現在公開中の脳梗塞の治療を例にとった動画に対するアンケート調査の結果、動画を閲覧後「今よりもっと患者とのコミュニケーションを取りたいと思った」薬剤師は86%であった。また薬剤師のコミュニケーション研修の教材としても活用できることが推察された。

現在、病棟編、在宅医療編を作成中であり、2015年春公開予定となっている。

・「第8回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会」「第47回日本薬剤師会学術大会」において、動画の有用性やくすりのしおり®の現況について報告した。

・ 「くすりのしおり®」について

2-1. 「くすりのしおり®」の利用状況と今後について（有限会社レーダー出版センター藤原）

＜参考資料：スライド資料、参考資料1＞

・ くすりのしおり®利用状況と今後について

HP 掲載数は順調に伸び日本語版 14,539 品目となり、特に英語版は 4,109 品目で新システム導入後約 3 年で 2.5 倍となっている。「くすりのしおり®」データ利用については、電子版お薬手帳の引き合いがあり、多くの導入が見込まれる。

2-2. 「くすりのしおり®」のシステム関連について（有限会社レーダー出版センター黒川）

＜参考資料：スライド資料＞

・ sp コード廃止に伴い、PMDA の患者向けガイド検索サイトにおける「くすりのしおりとは」の文章を変更した。

今後の改修予定として 2 件。1 件は、初期症状と副作用の固定文「下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。」の「使用をやめて」を入れるか否か、選択できるようにする。

2 件目は、Word 版くすりのしおりファイルの上下余白を小さくし、本文をあと 4、5 行多く入力出来るようにする。

2-3 英語版くすりのしおり®について（くすりの適正使用協議会 片山）

＜参考資料：スライド資料＞

・ 英語版「くすりのしおり®」ガイドライン改定第二版完成

英語版ガイドラインの第 2 版完成の報告と修正点の案内がなされた。

・ 英語版くすりのしおりをとりまく環境

全国の調剤薬局における外国人患者対応のアンケート調査を実施。94%の薬剤師は、英語版医薬品情報が必要という結果が出た。また、外国人患者に対し服薬指導する上で役に立つと思うか？という質問については、95%が必要との結果だった。

結果についてはリリースし、朝日、産経、地方紙など 36 紙及び「クレデンシャル」「ドラックマガジン」などの雑誌に掲載された。

※質疑応答

なし

以上